

## 駅ホームにおける安全対策について

### ホームドア整備の加速化について

ホームドアについては、「バリアフリー法に基づく基本方針における次期目標について（最終とりまとめ）」（令和2年11月）に基づき、きめ細やかな進捗をフォローするため、優先的な整備を引き続き推進することとしている10万人以上駅のみならず、10万人未満駅も含めた全体についても、番線単位の数値目標を設定し、ホームドア整備を引き続き推進。

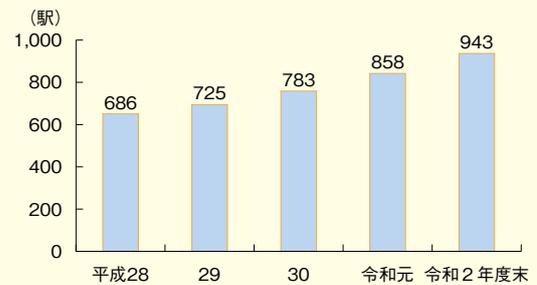
数値目標は、利用者数のみならず、転落・接触事故の発生状況、駅やホームの構造・利用実態、駅周辺エリアの状況などを勘案し、優先度が高いホームでの整備を加速化することを目指し、令和7年度までに全体で3,000番線に整備。そのうち、1日当たり平均利用者が10万人以上の駅については、800番線に整備。

〈ホームドア等の整備状況〉

	整備状況
鉄軌道駅全体	2,192番線 (全19,922番線中)*
うち平均利用者数が 10万人以上/日の駅	334番線 (全851番線中)*

※（ ）は令和2年度末時点の実績値  
ホームドアの整備済駅数推移（国土交通省鉄道局資料より）

【ホームドア設置駅数の推移】



### ホームドア整備によらない転落防止対策の検討について

転落事故を防ぐためにはホームドアの整備が有効だが、整備に多くの時間や費用を要することや、構造等の要因で整備が困難なホームもあることから、ホームドアによらない転落防止対策が喫緊の課題。

ホームドアの設置を引き続き推進するとともに、ホームドアが整備されていない駅ホームにおいて、ITやセンシング技術等を活用し、駅係員のみならず鉄道利用者による協力も視野に入れて、視覚障害者の方々に駅ホームを安全に利用いただくための対策について、「新技術等を活用した駅ホームにおける視覚障害者の安全対策検討会」において検討。令和3年7月には中間報告を公表し、引き続き検討を進めている。



実際のホームや車両を用いた歩行訓練（令和3年3月 阪神電車梅田駅）

#### 【検討会メンバー】

視覚障害者団体・支援団体、学識経験者、鉄道事業者、  
国土交通省、厚生労働省（オブザーバー）

（※視覚障害者団体・支援団体）  
日本視覚障害者団体連合／東京都盲人福祉協会／日本弱視者ネットワーク  
日本網膜色素変性症協会／日本歩行訓練士会／日本盲導犬協会